

油画の入試内容の変更について

多摩美術大学絵画学科油画専攻は、2029年度より一般選抜の専門試験の内容を変更します。

これまで油画専攻では、「対象を見て描写する力」と「作品をつくるための発想力」の2つを基礎力と考へ、「デッサン」と「油彩」による実技試験を行ってきました。今回の変更は、その基礎力を引き続き大切にしながら、受験生一人ひとりの表現者としての魅力や可能性に、より丁寧に向き合うための改革です。

変更内容

デッサン試験は廃止とし、油彩（アクリル等を含む）による2日間の試験とします。

試験期間中に自由に使用できるスケッチブック（あるいはそれに準じたもの）を配布し、その中の素描やメモ、エスキースも評価対象とします。また、油彩作品についての文章、たとえば作品タイトルや短い解説などの提出も検討しています。

2日間の油彩試験では、受験生がより自由に、時間をかけて制作に取り組むことができます。完成した作品だけでなく、制作の過程、観察のあり方、考への展開などを、スケッチブックや言葉を通して知りたいと考えています。

変更理由

多摩美術大学油画専攻は、「自由と意力」の理念のもと、90年にわたり、絵を描く喜びと表現の可能性を探究してきました。絵画を根幹としながら、インスタレーション、パフォーマンス、映像、ソーシャリー・エンゲイジド・アート、漫画など、現代における多様な表現にも開かれています。

私たちが入試で見たいのは、技法の巧拙だけではありません。受験生が日常の中で何をみつけ、何を美しいと感じ、なぜ表現したいと思うのか。対象を観察し、真摯に描く力とともに、自分自身の表現に率直に向き合う姿勢を大切にしたいと考えています。それは、受験生一人ひとりが世界をどのように観察し、どのように向き合っているのかを知ることにもつながります。

したがって、今回の変更は、デッサンが必要なくなったという意味ではありません。対象をよく見て描くことは、これまで通り重要な基礎です。そのうえで、受験生それぞれの資質や魅力を、より細やかに受け止める入試へと変えていきます。

この入試が、受験生にとって、より充実した創造の経験となることを目指しています。

※試験内容の詳細は、2028年7月に公開予定の募集要項をご確認ください。